

テーマ

## 会計情報統合化の流れとそのインパクト

コーディネータ  
報告者

成田 博(高千穂大学商学部)  
井上裕史(SAPジャパン(株))  
河合 久(中央大学商学部)  
櫻井康弘(高千穂大学商学部)  
今井二郎(公認会計士・高千穂大学非常勤講師)  
小倉 昇(筑波大学大学院ビジネス科学研究科)  
溝口周二(横浜国立大学経営学部)

ディスカッサント

テーマの趣旨(成田 博)

ERPは情報システムの統合化を積極的に推進しているが、その流れの意味を明らかにし、日本における会計情報システムの統合化の現状を報告するとともに、会計情報システムに対するインパクトを明らかにする。

「経営情報システム統合化の変遷と会計情報システム」(井上裕史)

近年における情報技術の進歩によりその構造が大きく変革してきた経営情報システムにおいて、その変革の中心とも言える「統合化」に焦点をおき、経営情報システムの変遷を説明すると共に、その中でのERPの役割を説明する。つぎに、経営情報システムの統合化が推進されて行く中で、会計情報システムの役割がどう変わってくることになるかを明らかにする。

「実態調査から見た会計情報システム統合化の進展状況」(河合 久・櫻井康弘)

わが国企業の会計情報システムがどのように変化し、統合化がどこまで進展してきているかについて、実態調査を基礎に報告を行う。基幹業務システムのネットワーク化と取引処理システムの統合化との関係や、取引処理システムの統合化と会計情報の範囲との関係などについての現状を明らかにする。

「ERPによる会計・業務の統合化とそのインパクト」(今井二郎)

統合化の行き着く結果として、現業情報と会計情報の一体化が進み、契約・発注等の未履行の契約情報が実績情報と全く同質の情報として補足され測定される状況が生まれてきていることを確認する。そして、ここから、実績情報が確定する以前の先行的な会計情報に着目し、実績情報に主体を置いた従来の会計情報概念を抜け出て、より統合的な会計概念へ若干の拡張を検討すべきではないかとの問題提起を行う。

課題・論点の指摘と質疑(小倉 昇)

(溝口周二)